

2024年度（令和6年度） 町田市立南中学校 理科 2年 年間指導計画及び評価基準

使用教科書：理科の世界（大日本図書） 年間授業時数：140時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ～ 9	2年 単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 いろいろな化学変化 3章 化学変化と熱の出入り 4章 化学変化と物質の質量 単元末・読解力問題	39	<p>化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち及び化学変化、化学変化と物質の質量のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する。</p> <p>化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。</p>	<p>実験1 炭酸水素ナトリウムの熱分解 実験2 電気による水の分解 実験3 金属の燃焼 実験4 酸化銅の還元 実験5 鉄と硫黄の混合物の加熱 実験6 熱を発生する化学変化 実験7 熱を吸収する化学変化 実験8 化学変化の前後の質量 実験9 銅を加熱したときの質量の変化</p> <p>1～9の実験を行い、レポートを作成する。 様々な化学変化を化学反応式やモデルで表す。 ICTの活用。</p>	<p>化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p>	<p>化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。</p>	<p>化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。</p>
4 ～ 9	単元2 生物の体のつくりとはたらき 1章 生物をつくる細胞 2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき 単元末・読解力問題	37	<p>生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物や動物の体のつくりと働きのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>身近な生物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を考え観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。</p>	<p>観察1 生物の顕微鏡観察 観察2 単細胞生物と多細胞生物の観察 観察3 光合成が行われる場所 実験1 光合成で使われる物質 実験2 蒸散と吸水の関係 観察4 葉の表皮と断面 実験3 だ液のはたらき 観察5 毛細血管の観察 実験4 刺激と反応</p> <p>上記の実験や観察を行い、レポートを作成する。 生物の体のつくりと働きの映像資料を見せる。 小テストを行い、基本内容を習得する。 ICTの活用。</p>	<p>生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p>	<p>身近な植物や動物の体のつくりと働きについて問題を見だし、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現している。</p>	<p>生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。</p>

1 0 ～ 3	単元3 電流とその利用 1章 電流と回路 2章 電流と磁界 3章 電流の正体 単元末・読解力問題	3 5	<p>電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら電流、電流と磁界を理解するとともに、それらの実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。</p>	実験1 豆電球やモーターに流れる電流の大きさ 実験2 電流の大きさ 実験3 電圧の大きさ 実験4 電流と電圧の関係 実験5 電力と熱量の関係 実験6 電流がつくる磁界 実験7 電流が磁界から受ける力 実験8 電磁誘導 実験9 電気の力 1～9の実験を行い、レポートを作成する。 ICTの活用。	電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。	電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
1 0 ～ 3	単元4 気象のしくみと天気の変化 1章 気象観測 2章 気圧と風 3章 天気の変化 4章 日本の気象 単元末・読解力問題	3 0	<p>身近な気象の観察、実験などを通して、気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。</p>	観測1 気象観測 実習1 天気図を読む 実験1 露点の測定 実験2 雲のでき方 観測・実験・実習を行い、レポートを作成する 気象要素のグラフを読みとる。 空気に質量があるか調べる。 高気圧・低気圧付近の天気の特徴を調べる。 高気圧や低気圧の移動について調べる。 各地の気象を苦 y らべ手日本の天気の特徴を理解する。 気象現象がもたらす恵みと災害を調べてみる。 ICTの活用。	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現している。	気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。